

自動走行システム推進委員会（第5回）議事要旨

1. 日 時 平成26年9月26日（月）9：30～12：00

2. 場 所 中央合同庁舎第4号館11階第1特別会議室

3. 出席者：（敬称略）

（議長）渡邊 浩之

プログラムディレクター

葛巻 清吾	トヨタ自動車株式会社 CSTO (Chief Safety Technology Officer) 補佐
朝倉 康夫	東京工業大学大学院 理工学研究科教授
浅田 浩之	三菱自動車工業株式会社 開発本部車両先行研究部部長
天野 肇	ITS Japan 専務理事
稲垣 敏之	筑波大学大学院 システム情報工学研究科研究科長
岩貞 るみこ	自動車ジャーナリスト
小花 貞夫	電気通信大学大学院 情報理工学研究科教授
加藤 晋	産業技術総合研究所知能システム研究部門研究グループ長
川本 雅之	トヨタ自動車株式会社 技術統括部主査
熊谷 義彦	スズキ株式会社 四輪技術本部四輪安全・情報設計部部長
清水 和夫	自動車ジャーナリスト（代理：吉岡卓朗）
関口 守	富士重工業株式会社 技術本部電子商品設計部主査
栃岡 孝宏	マツダ株式会社 技術研究所部門統括研究長（代理：黒田康秀）
永井 正夫	日本自動車研究所 所長
福島 正夫	日産自動車株式会社 環境・安全技術渉外部技術顧問
山田 憲一	ダイハツ工業（株） 開発部機能部品開発室課長
横山 利夫	株式会社本田技術研究所 四輪R&Dセンター上席研究員
市川 類	内閣官房 情報通信技術総合戦略室参事官
山本 和毅	警察庁 長官官房参事官（代理：來山信康）
森下 信	総務省総合通信基盤局 新世代移動通信システム推進室室長
吉田 健一郎	経済産業省製造産業局 電池・次世代技術ITS推進室室長
山本 巧	国土交通省道路局 道路交通管理課ITS推進室室長（代理：垣原清次）
久保田 秀暢	国土交通省自動車局 技術企画室室長（代理：谷口正信）

オブザーバー

村山 隆

東京都青少年・治安対策本部治安対策担当部長

道路交通分科会構成員

浅見 孝雄	日産自動車株式会社 常務執行役員
川嶋 弘尚	慶應義塾大学 名誉教授、コ・モビリティ社会研究センター 特別顧問
川端 由美	ジャーナリスト（自動車評論家、環境ジャーナリスト）
桑原 雅夫	東北大学大学院情報科学研究科 教授
佐々木 則夫	株式会社東芝取締役 副会長
時津 直樹	インターネットITS協議会 事務局長
中鉢 良治	産業技術総合研究所 理事長

事務局

福田 敦史	内閣府 科学技術・イノベーション担当 参事官
田沼 知行	内閣府 科学技術・イノベーション担当 企画官
兵藤 守	内閣府 科学技術・イノベーション担当

#### 4. 議題

##### 【1】開 会

- (1) 本日の主旨や議事の進め方説明・構成員自己紹介等

##### 【2】道路交通分科会

- (2) 平成 27 年度「創造宣言」及び「工程表」関連施策について  
平成 27 年度 科学技術重要施策アクションプラン特定状況について
- (3) 交通データ利活用戦略の進め方について

##### 【3】道路交通分科会・SIP 自動走行システム推進委員会 合同会議

～SIP 自動走行システムの開発推進に係る議論～

- (4) SIP 自動走行システム研究開発計画について
  - (5) 推進委員会及び WG の検討状況について
  - (6) 研究テーマの推進状況について
  - (7) システム実用化 WG の検討状況について
  - (8) 次世代都市交通 WG の検討状況について
    - ①交通弱者・歩行支援システム TF の進め方
    - ②ART の企画案
    - ③2020 年東京オリパラ東京大会に向けた科学技術イノベーションの取組みに関する TF について
  - (9) 国際連携 WG の検討状況について
    - ①世界の自動運転の動き
    - ②国際連携活動の進め方
    - ③ITS 世界会議デトロイト結果
    - ④国内開催の国際会議の企画案
    - ⑤SIP 統一スローガン
- ～両会議体構成員での意見交換～
- (10) 安全運転支援・自動走行システム推進に向けた課題について
  - (11) 今後のスケジュールと進め方について

##### 【4】閉 会

#### 5. 配付資料

- 資料 1 平成 27 年度「創造宣言」及び「工程表」関連施策及び SIP 関連施策【非公開資料】
- 資料 2 平成 27 年度 科学技術重要施策アクションプラン対象施策の特定について（抜粋）
- 資料 3 交通データ利活用戦略に向けた今後の方向について（案）
- 資料 4 S I P 自動走行システム研究開発計画（抜粋）
- 資料 5－1 自動走行システム推進委員会構成員名簿
- 資料 5－2 システム実用化WG構成員名簿
- 資料 5－3 次世代都市交通WG構成員名簿（案）
- 資料 5－4 国際連携WG構成員名簿
- 資料 6 S I P 自動走行システム進捗状況まとめ【非公開資料】
- 資料 7－1 地図情報の高度化技術の開発について【非公開資料】
- 資料 7－2 ドライバーと自動走行システムの役割とインターフェースに関する研究開発  
【非公開資料】
- 資料 7－3 マルチ GNSS 環境における動的位置精度の検証【非公開資料】
- 資料 7－4 事故低減効果推定シミュレーションシステムの開発【非公開資料】

資料 7-5 その他の研究開発項目【非公開資料】  
資料 8-1 交通弱者をしっかりと捉え、自立のサポートを【非公開資料】  
資料 8-2 移動手段と交通弱者の対象範囲の関係図（案）【非公開資料】  
資料 8-3 タスクフォースの当面の進め方（案）【非公開資料】  
資料 8-4 開発スケジュール（案）【非公開資料】  
資料 8-5 交通弱者の対応について（案）【非公開資料】  
資料 8-6 ART の企画について【非公開資料】  
資料 8-7 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた取組体制  
資料 9-1-① 欧米の自動運転関連研究開発  
資料 9-1-②（参考）自動運転 レベル分け案  
資料 9-2 国際連携活動の進め方について  
資料 9-3 ITS 世界会議の様相について  
資料 9-4 国際会議の準備状況について  
資料 9-5 SIP 自動走行システム・スローガンについて【非公開資料】  
資料 10 安全運転支援・自動走行システム推進に向けた課題について  
資料 11 今後の進め方について（案）  
（参考資料 1）道路交通分科会・SIP 自動走行システム合同会議について  
（参考資料 2）平成 27 年度「創造宣言」及び「工程表」関連施策登録票【非公開資料】  
（参考資料 3）平成 27 年度科学技術重要施策アクションプランの進め方について（案）  
（参考資料 4）第 6 回道路交通分科会 議事要旨  
（参考資料 5）自動走行システム推進委員会（第 4 回）議事要旨案

## 6. 議事要旨

道路交通分科会議事については本議事要旨においては割愛する。

### 1. SIP 自動走行システム研究開発計画・構成員について

- 資料 4 について PD から、資料 5、資料 6 について事務局より説明があり、以下の議論があった。
  - ◇ あるべき道路、あるべき管制等、地域交通マネジメントについてしっかりと定義を。  
→自動運転技術により安全を高めることの効果は、社会・住民・地域等多様な効果が期待できると思う。交通死亡事故のみにフォーカスをせず、各個人の生活に直結する内容を含め検討を。  
→ご指摘の通りと思う。以後の議題で触れる内容もあるため、その方向に沿っているか判断いただけたらと思う。

### 2. システム実用化 WG の検討状況について

### 3. 次世代都市交通 WG の検討状況について

### 4. 国際連携 WG の検討状況について

### 5. 安全運転支援・自動走行システム推進に向けた課題について

- 資料 10 に基づき説明があり、以下の議論があった。
  - ◇ 国際競争力強化については、自動車メーカーだけではなく、相手国を囲い込むことも重要で国際協力をいかに有効に使うかという観点も含め戦略が必要

→デファクトスタンダードをとるには政府の交渉力が必要になっているのも実態。戦略的に進めるためにも、自動車業界全体を含めて総合的な体制で臨む必要がある。日本で実施するためには、自動車メーカーのヒエラルキーにとらわれず、系列のサプライヤーが研究開発を進めていけることを前提にする必要がある。

→I T S世界会議においてGM、F o r dが、自分たちは車だけを作るのではなく、インテグレータとして取り組んでいく必要がある旨の発言もあった。そのような意識替えが必要と思う

→海外勢と戦うためには協調していくところが重要になってくると考えている。競争環境を整えるところに日本としてしっかりとした発言力を持っていくことが重要。S I Pの活動を基盤に海外と協調できるところで発言力を持ち、戦う関係をつくっていくことが大事

→国際標準化については、各機関で進めている内容を協調して進めていく必要がある。

→国際連携をはじめ多くの会議が産官学連携の上で進めている。全体として俯瞰できるものを見る化した上でS I P並びに関係の方々と推進していく。

- ◇ 市場では高機能カーナビの売れ行きが減少傾向にある。ドライバーはカーナビではなく、スマートフォンなど代替手段で実施する動きもある。これら状況を踏まえ検討を進めていただきたい。

以上